

# J R 総連通信

2018年6月15日 No.1277

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

**18春闘の大敗北を受け止め、脱退・離脱した全組合員に謝罪し、新生JR東労組を創生することを決定!**

## JR東労組第36回定期大会開催!

6月13日、JR東労組は第36回定期大会を開催し、執行部は嘘と誤魔化しのない組合運動を推し進め、JR東労組を組合員のための労働組合に再生することを確認した。

### 村田委員長代理挨拶（要旨）

3万人を超える脱退は、JR東労組運動のあり方が否定された。18春闘を闘って組織は弱体化した。闘争課題・闘争戦術は決定的に失敗。大敗北を喫した。JR東労組の再確立に向けて、企業内労働組合としてのあるべき労使関係を創りだしていく。

JR東労組全12地本は、組織の破壊を企む「JR東労組を憂う会」を絶対に許すことなく、一丸となって抗するたたかいを進める。

政策提言能力を高め、発揮し、会社施策に労働者の視点を盛り込み、安全・健康・ゆとり・働きがいのある組織を創りだしていく。

悪質な列車妨害が多発している。大事な商品に傷をつける悪質な列車妨害をはねのけ、安全で安心な鉄道を創りあげよう。

代議員からは、18春闘について、①スト行使の決定・準備、スケジュールも突然であったこと、②18春闘でのスト行使そのものも間違いであったこと、③スト権の確立とスト行使は別だと言い、スト行使に突き進んだ指導責任は重大であること、④「所定昇給額を算出基礎とすることにこだわらない」とする回答は成果ではなく、大敗北であること、⑤3万人を超える大量脱退を生み出した現実に向き合い、組合員のための組合運動を推し進める、⑥そのために、役員一人ひとりが自らに矢印を向け、嘘と誤魔化しのない運動を進めること、などの発言があった。

特に新潟地本の代議員からは、今のJR東労組は10年前の組織分裂の時と同じ。スト反対の意見を述べても聞き入れられず、反対意見を言えば「闘いから逃げた」とレッテルを貼る地本もあった。

引き返すチャンスがあったにも関わらず、見ようとしなかった。これがJR東労組の現実だ。この姿勢は春闘だけではない。36協定も各種施策も同じだ。

新しく生まれ変わったJR東労組として変革していかなければならない。変わるべきは私たち自身。これが私たちの闘いだ。

長野地本の代議員からは、本部は本質より数字を重視。組合員の理解を置き去りにする風土が蔓延していた。吉川元委員長に疑問を感じつつも言わないことは賛同していたことと同じ。役員は多くの組合員の思いを背負っている。本部は組合員の声を受け止めているのか疑問。

17春闘では確立と行使は別だと提起したはず。18春闘は現場の思いを受け止めていない。仮に不当労働行為があったとしても、そのきっかけをつくったのは組合だ。組織に裏切られたというのが実情だ。

大量脱退は労働組合のあり方が問われる。役員の一方向的なスタイルが根底から変わらない限りJR東労組の復活はない、と厳しい発言があった。

## 脱退・離脱した全組合員に訴える!

**新生JR東労組に再結集し、共に茨の道を切り拓き、会社施策に真正面から向き合い、組合員と共に仲間を大切に作る組織を創造しよう!**